

が、中間圏及び電離層に向けて気温の上昇し始める辺りの測定は我々に多くの知識を提供するであろう。

(矢田 明)

A.P. Mitra: Ozone Photochemistry.

オゾン光化学

この総合報告の要点は、二つに分かれ、前段は中性分子の光化学、後段はイオン反応の寄与となっている。

先づ中性分子の反応においては、反応速度恒数の精度と、その温度係数が重要であることが、指摘され、1967年度の DASA データというのが紹介された。又、この問題における化学平衡論からのずれ、つまり反応速度因子とこれからくる分子の平均寿命の重要性が指摘され

る。成層圏から中間圏へ行くと、 O_3 と O との平均寿命が逆転し、 O の寿命が長くなる。さらに、中間圏における渦動拡散が加わり、 O 原子が増加し、 O_3 分布の異常をきたす。この事情は、Hesstvedt により推論され、日本の東大オゾンロケットにより観測されている。イオン化学反応の導入については、先の関原のあげた機構と同じ過程により、 NO の生成による O_3 との反応が、D層の下限を決定するという重要な結論を出している。(但し、これは先に堀内の論文では、計算により示されている) 又、負イオンの役割に関し、 O_3^- の生成が電子密度の減少をきたす点負イオン化学の重要性を強調した。

(関原 彊)

第14期 第5回 全国理事会 議 事 録

日 時 昭和43年 5月27日 18.30~20.40
場 所 気象庁、予報部会議室
出席者 畠山、北岡、岸保、神山、桜庭、須田、大田、根本、小平、三宅、小倉(常任理事)
孫野、山本、磯野、斎藤(理事)
列席者 高橋、藤田(監事)
川瀬(大会委員長)

議 題

1. 総会の準備について

- (1) 大会成立のための定足数は委任状を合せ 429 名
本人の出席 86 名
を必要とする。28日午前中に委任状の呈示方を掲示してチェックする。
- (2) 議長選出までと表決者の数の計算は事務局がやる。
- (3) 庶務理事の事業経過報告(案)を北岡理事が読上げた承された。
- (4) GARP, 大気物理研究所, 学術会議の報告は理事長のあいさつに入れる。
- (5) 事業計画報告については細かい事項について須

田庶務理事が予算案説明の前に補足説明する。

- (6) 42年度決算書を桜庭会計理事が説明し、藤田監事から 1. 予算に従い執行され、2. 伝票、記帳は正確に整理され、3. 財産は確実に保管されており、正常に執行されている旨の監査報告がなされ、決算書が承認された。
- (7) 43年度予算(案)を桜庭理事が説明し、山本理事から Page charge について発言があり討議されたが Page charge については次回の理事会で検討することとし、予算(案)は承認された。
- (8) 学生会員制は提案どおり成立をはかることになった。